

八モ資源動向調査

我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

吉岡拓也・石川陽子

資源動向調査では、資源管理指针对象魚種、広域重要魚種、栽培対象魚種について、漁業と資源の現状、資源回復に関する管理施策、種苗放流による効果等の調査を実施する。徳島県は八モを担当し、資源動向調査を実施した。

方 法

紀伊水道、太平洋、播磨灘における八モの漁獲量について、漁獲集計システムを導入している9漁協のデータをまとめた。主要漁法である延縄と小型底びき網については、9漁協のうち代表2漁協の漁獲量をまとめた。

また、長期的な資源動向を把握するため、徳島県における昭和31年以降の漁獲量を「漁業・養殖業生産統計年報」から調べた。平成19年以降は八モについて「漁業・養殖業生産統計年報」の集計対象から外れたので、代表漁協の漁獲量を引き延ばして徳島県の漁獲量を推定した。漁獲集計システムを導入している9漁協のうち、漁獲物の全量を漁協へ水揚げし、全船がほぼ同時期に同じ漁具を使って八モを狙う代表1漁協のCPUE(kg/日・隻)から資源動向を把握した。

結 果

八モは紀伊水道、太平洋、播磨灘で漁獲されるが、紀伊水道が主要な漁場である。(図1)。徳島県における八モの漁獲量は平成13年に急増した後、横ばい傾向で推移している(図2)。延縄の主漁期CPUEは、平成21年以降82~121kg/日・隻で推移し、平成29年は前年比68%の72kg/日・隻だった(図3)。小型底びき網の主漁期のCPUEは、平成21年以降57~136kg/日・隻で推移し、平成29年は前年比108%の97kg/日・隻だった(図4)。

考 察

資源状態

延縄と小型底びき網の漁獲量とCPUE(kg/日・隻)を指標に、紀伊水道における八モの資源水準及び資源動向を推定した。平成12年以降の漁獲量において、最高値と最低値の間を3等分し水準を判断すると中位、平成29年主漁期4~9月のCPUE(kg/日・隻)は延縄で前年を下回ったものの、全体として平成24年以降大きな変動がないことから、資源動向は横ばいと考えられる

資源管理の方法

八モ資源を持続的に利用するためには、産卵親魚の保護、経済的な価値が低い小型魚や大型魚の再放流等の取り組みを推進する必要がある。また、八モの資源水準や資源動向を的確に把握するためにも、必要となる資料を積み上げることが必要である。

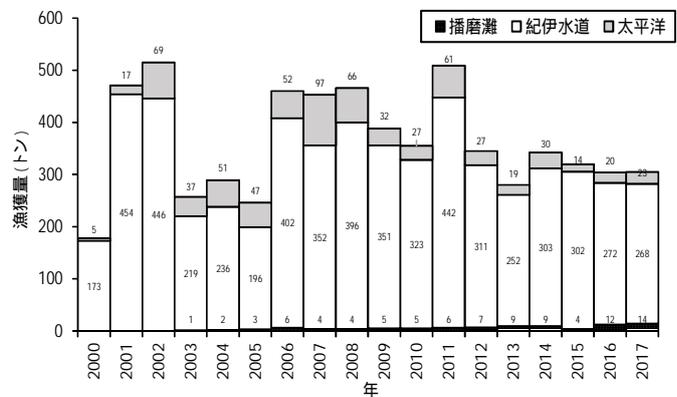


図1. 海域別漁獲量の経年変化

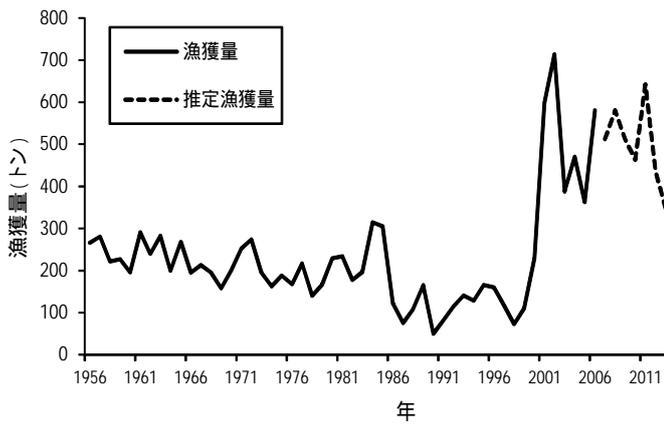


図2. 漁獲量の経年変化
(漁業・養殖業統計年報 + 推定漁獲量)

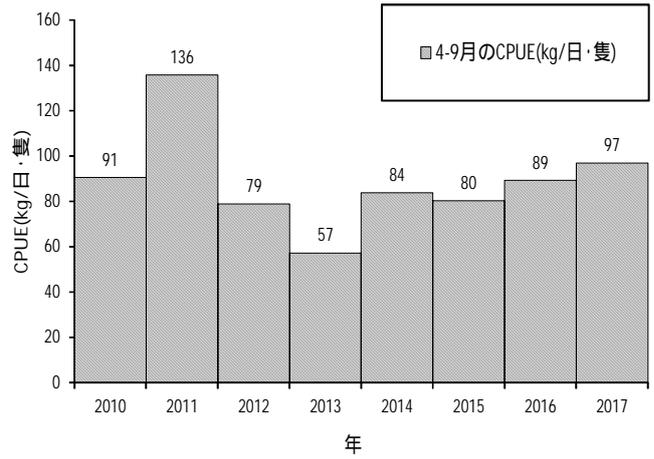


図4. A漁協の小型底びき網による主漁期CPUE (kg/日・隻)の経年変化

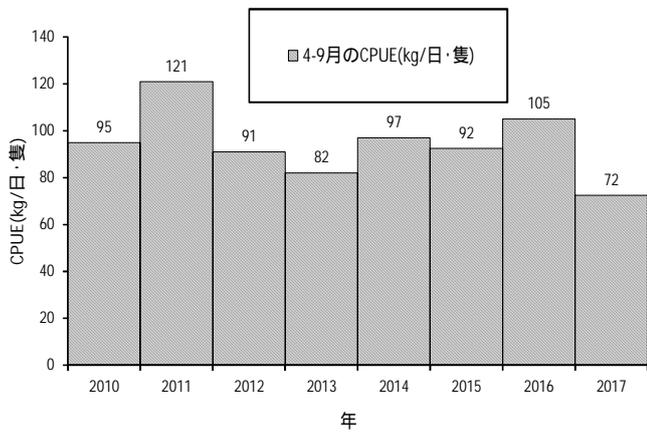


図3. A漁協の延縄による主漁期CPUE (kg/日・隻)の経年変化